

北陸大学の教育への取り組みと教員からみた学生像

◎佐藤 妃映¹⁾学校法人北陸大学¹⁾

北陸大学 医療保健学部 医療技術学科は、「生命を尊び、医療の進歩に対応して、臨床検査学・臨床工学分野から人々の健康に寄与する」を教育理念として、2017年に新設された。本学では臨床検査学と臨床工学の2つの領域のクロスオーバーする知識と技術を修得することで、人口減少を抱える地域医療や少子高齢化社会、さらに高度化する医療現場や医師の働き方改革に対応することのできる医療従事者の育成を目指している。また、安心・安全な医療の実践のためにチーム医療体制の必要性が求められているなかで、学生の時から幅広い知識のみならず正確な言葉遣いと広い視野を持つことは、コミュニケーション力を育成し、多職種連携の基本となる相互理解を深めることで北陸大学の使命としている「健康社会の実現」につながるものと考えている。

医療従事者としてこの多職種連携の基盤となる学ぶべきことは、調べる能力、聞く能力、話す能力、書く能力を培うことである。本学では初年次教育プログラムを設置し、特に1, 2年生次の「基礎ゼミナール」に力を入れている。本科目では、テーマに基づいた課題に対して調査、討論、発表を行い、自己表現力を養い、学生同士の交流により豊かな人間性を育て、生命を尊び、真理を究める人間を育成することを目的としている。グループワークを通して、他者の意見を尊重しつつ課題に対して協働しながら解決に向けて積極的に取り組む力を身につけることを目指している。

また、この授業では入学時に、「本学に入学した理由」や「卒業時にどのような人物になりたいか」、「大学で楽しみにしていること・不安なこと」、「コミュニケーションが得意かどうか」等についてアンケートを実施している。この結果を学生の個性を活かすことができる学修環境、本人自身の力で今の課題を乗り越えるきっかけとなるような環境づくりに活かしている。

本学へ進学した理由として、身内の病気や自分が入院した経験、身内の医療従事者や親からの勧め、医療系の資格が取れることを挙げる学生が多くみられる。なかには、テレビドラマなどで臨床検査や病理検査について知り、細胞検査士に興味を持つ学生もいる。反対に、臨床検査技師や臨床工学技士の業務内容について十分な知識を持たず入学し、将来どちらの職種にするか漠然としている学生もいる。しかし、初年次教育プログラムを進めるなかで早い時期から自分の将来目指す医療人像が形成され、意欲を持って学修に取り組んでいく姿が見て取れる。これは多くの実務経験者による教育の成果と考えている。

学生は多様で個性に富み、学年によっても傾向や雰囲気の違いがある。現在の1年生は、コミュニケーションやグループワークをスムーズに進めることができ、クラスの皆と積極的に関わっていきたく希望する学生が多い。しかし、アンケートでは半数以上がコミュニケーションはどちらかというと不得意あるいは不得意であるという回答であった。この学年は中学・高校時からアクティブ・ラーニング（AL）が導入された教育を受けており、電子デバイスの扱いやツールを用いた課題の作成に慣れているのはコロナ禍での遠隔授業が影響している可能性がある。時代による教育の変遷に対応して、学生の知識や技術だけでなく、思考力や表現力、判断力、人間性も少なからず影響を受けて、学生像も移り変わっていくことが推測される。

しかし、学年に拘らず学生は皆素直で真面目であり、誠実な姿勢で学修に取り組んでいる。どの学生も教員の想像を遥かに超えて日々成長しており、嬉しい驚きとともに頼もしく思い、教員にとっても気づきや学びがある。社会環境の変化に伴う求められる人材像や能力を見据えながら、学生ひとりひとりのかけがえない個性が持つ可能性を広げる学びを支援していけるよう、学生と共に教育を創り上げていきたい。

(連絡先 076-229-1161)